

志小安全・防災だより



バックナンバーは本校 Web ページ (QR コード) でご覧いただけます。

R2. 5. 25 No.7

安全・防災担当: 早坂 潤

暴風雨時のお迎え、御多用の中ありがとうございました

5月19日(火)は、朝から風雨となり、徒歩通学をする子供たちにとっては、これまでの歩く練習の日を含めても、一番の悪天候となりました。この日は、南三陸町に大雨・強風注意報が発令されました。このような天候の中、西団地の数名の子供たちが雨にも、風にも負けずに徒歩で登校してきました。傘が役に立たないくらいの風雨で服が濡れてしまいましたが、学校では、濡れて来る子がいたり、寒くて体調不良を訴えたりする子が出ることを想定し、前日からストーブを準備していたので、そこで乾かし、3時間頑張りました。下校時は、子供たちの安全確保のため徒歩通学の子供たちは、保護者の皆様に迎えに来ていただくことにしました。お忙しい中、御対応をいただき、ありがとうございました。おかげ様で、お昼前には子供たち全員が帰宅することができました。



災害時にペットの命を守るための平常時の備えとして

日本列島のあちらこちらで大きな地震が発生しています。先日も宮城県で震度4を観測しました。いざというときの備えは、生活用品だけではなく、家に一緒に住んでいるペットにも当てはまります。災害時のペットと一緒に避難については、環境省が犬や猫を想定して作ったガイドラインで、「被災した飼い主の心のケアの観点からも重要」として、一緒に避難をすることを原則としています。しかし、避難所等の生活では、ペットは癒やしにもなるし、ときには邪魔にもなり得るとのことです。ペットが社会の一員となるには、飼い主



の備えと覚悟が必要であることが言われています。ペットの命を守るための平常時の備えとしては、食べ物5日分以上備蓄すること、ワクチンの接種証明やペットと飼い主と一緒に映った写真を用意しておくことだそうです。また、地震発生時にペットが驚いて外に飛び出し、迷子になってしまうこともあるので、人に飼われていることを示すマイクロチップも効

であるとのこと。今後、災害が発生しペットも避難所等に受け入れてもらうためには、しつけ、予防接種、地域で行う避難訓練に参加させて地域になじませるものの必要性も語られています。しつけでは、飼い主以外の人や他の犬猫を怖がったり吠えたりしないように社会性を身に付けさせること、トイレシートなど決まった場所で排泄できるように訓練し、清潔にできるようにしておくことも大事であることが言われています。